



ご縁をつなぐ、丸い紙管で円から縁へ

～スパイラル(螺旋)から縁を感じ・学び・創造し・伝えていく～

紙管は、紙が螺旋状の円を描きながら重なり巻かれ、強く丸く、そして真っすぐに伸び作られます。その様子は、さまざまな「縁」からなる「人の成長」や「人の和・組織」「技術の進化」「企業の発展」「文化の継承」といった事に形容されるのではないのでしょうか。

企業活動に於いても、「計画」Plan→「実行」Do→「評価」Check→「改善」Act を実施し、「改善」を次の「計画」に結び付け、螺旋状に品質の維持向上、継続的な業務改善を行う PDCA サイクルを表す図としてもスパイラルが用いられています。

他の商品からもスパイラルのように、指針となる言葉として「縁・凜・美・和・信・結」が例えられます。

その言葉がもつ意は、技術者(工務/工場)の精神であり、支える者(総務/経理)の志し、創造する者(新規/企画開発)のテーマ、伝える者(営業)の誇り、全体の意識となり、さまざまな商品が生まれています。それらのご縁で私たちは成長し、また次の代へと継承していきます。

これからもお客様との縁を大切に、皆様とともに、120年、150年、200年へと伝統や歴史となり新たな縁と未来へ刻まれつなげていきます。



紙管容器 丸縁

エン えにし ゆかり
縁起、縁由、縁結び

紙管容器は、丸い角のない円状の「縁起」の良い容器です。紙管から広がった「縁」はさまざまな商材や人と未来へとつながっていきます。

- ・得意先、当社、仕入先の三位一体のスクラムは縁である。
- ・物事の縁由を知り、考え、行動する。
- ・古都の、土地柄を活かした縁(ゆかり)ある物づくりと、誇りをもつこと。



三代目 鈴木一郎

京都市より優良中小企業として表彰を受ける

1994 創業百周年

京都府知事より「京の老舗」表彰を受ける

見本帳スタート

スパイラルマシン導入

1952 会社設立

エトナ磨粉の紙缶容器製法開始

アイスクリームカップの生産

二代目 鈴木誠一

紙製の芯木「改良真木」を発表

亀屋陸奥へ「松風」の紙の筒納入始める

万華鏡との出会い

1893 一代目 鈴木宇吉郎



鈴木宇吉郎

Vカット容器 角凜

リンリ(りしい) 凜乎、凜々しい

紙1枚を残し真っすぐにV字カットする技は、紙とは思えないシャープな角が作られます。その箱は、美しい「凜」とした仕上がりになります。

- ・凜とした姿勢は、高い技術や高品質を生む現場作りの基となります。
- ・筋の通った意見や行動をとり、凜々しくあることで社の手本となる。
- ・お客様の気持ちを形に、美しい凜とした品質を提供する。

絞りプレス容器 曲美

ビ、ミ うつく(しい) ほ(める) 美学、甘美、和風

素材を知り、成形する技により、紙の絞りプレス容器は生まれます。紙の風合いと曲線のもと「美」は新しい価値を創造します。

- ・素材を活かす加工・技により、新たな美をお客様へ提供する。
- ・生産現場の確認・検品、美しさの追求は品質管理に繋がります。

資材紙管 材信

シン たよ(り) まか(せる) 信頼、信用、信じる

資材紙管は、芯になり、支え、守る機能を持ちます。それは、時と人となりが増えてきた「信頼」となり今もつながっています。

- ・物、素材を見る確かな目や経験、実績が信頼へと繋がります。
- ・他や自分が信じられる技術を身につけること。
- ・安心感を与え信用を得る物や人、会社であること。

見本帳 綴結

ケツ むす(ぶ) ゆ(う) 結束、結合、結び

見本帳は、複数のものを束ね綴じます。商品と番号、写真などの異なる素材や情報を正確に見やすく「結ぶ」ことが役目となります。

- ・物をより良く表現し、商品とお客様とを結ぶ商材が見本帳。
- ・社内や仕入、加工、内職先との結束が必要。
- ・紙と布地や建材などの異素材を貼る(結合)ノウハウが必要。

和雑貨 染和

ワ なご(む) やわ(らく) 平和、調和、和み

自社の雑貨は、布染め手法の柄紙などのこだわり素材を用い作られます。その風合いは、こころ和む小物として京の文化を伝えます。

- ・心をこめ作られる物は、安心感と和みをあたえます。
- ・伝統と革新を取り込み調和させ、新しい価値を発信する。